

1月に成熟する極晩生ウンシュウミカン‘あおさん’

果樹試験場 栽培部 主査研究員 井口 豊

【要約】

枝変わり探索により選抜された‘あおさん’は、熟期が1月と遅く、浮皮の発生が極めて少なく、早生品種に近い食感で優れた食味を特徴とする極晩生ウンシュウミカンである。

【背景・ねらい】

晩生ミカンは、秋から冬にかけての高温・多雨により浮皮が多発するとともに、過熟による収穫後の腐敗果の増加や貯蔵性の低下が問題となっている。そこで、果樹試験場ではJA、普及機関とともに優良な個体を育成・選抜する枝変わり探索事業を2004年より実施してきた。その中で、熟期が1月と遅く、浮皮の発生が極めて少なく食味に優れた‘あおさん’を選抜した。

【成果の内容・特徴】

1) ‘あおさん’の来歴について

‘あおさん’は、‘興津早生’の一樹変異個体として湯浅町で発見された。情報提供のあった2013年から果実調査を行い、既存品種との区別性や優位性などが認められた。その後、品種登録出願支援を行い、2021年2月15日に品種登録出願し、同年6月に品種登録出願公表（第35236号）となった。

2) ‘あおさん’の特徴について

既存の晩生品種と比較して、果皮やじょうのう膜は薄く、早生品種に近い食感であり食味が優れる。また、熟期は1月と遅く、果実は浮皮の発生が極めて少ない（写真1）。葉の大きさについてはやや小さく樹姿は興津早生に似る（写真2）。

3) 今後について

苗木は2024年春以降に流通が始まる予定である。

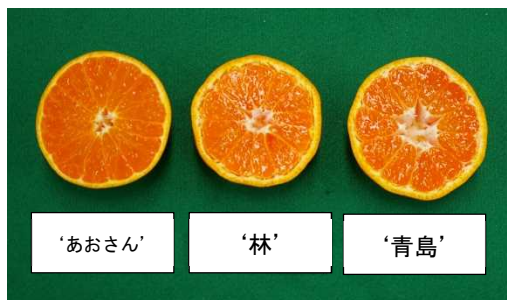


写真1 ‘あおさん’（左）、‘林’（中）
及び‘青島’（右）の果実断面
（果皮が薄く、浮皮の発生は極めて少ない）



写真2 ‘あおさん’の樹姿
（葉の大きさはやや小さく
‘興津早生’に近い樹姿）